

駿河湾の海洋生態系

1. 日時：9月14日(火)・15日(水)
2. 場所：対面(海洋学部3号館4階3401教室)・遠隔(Zoom)併用講義
3. シラバス：

9月14日(火)

(1) 10:10-10:30 —

講義タイトル: はじめに・・・駿河湾の海洋生態系を理解するために必要なこと

講師: 植原 量行(海洋地球科学科・教授)

講義概要: 駿河湾は南に開いた湾口最深部が2500 mに達する日本一深い開放性の湾として知られ、日本では唯一サクラエビの漁場が存在し、表層から深海に至る豊かな海洋生態系を持つ。この海洋生態系は、これまでの地道な研究によって多くのことが明らかにされてきたが、深海ゆえにまだわかっていないこともたくさん残されている。本講義では、駿河湾の海洋生態系、すなわち、物理的な環境の理解から、物質循環、低次生産、プランクトン、魚類、そして鯨類に至る生態系システムの機能と構造について概観し、本特論の全体像を示す。

(2) 10:40-12:10 —

講義タイトル: 駿河湾の物理海洋学1・・・駿河湾の大気・海洋・陸域・海底相互作用

講師: 植原 量行(海洋地球科学科・教授)

講義概要: 物理学を用いて海を理解するとはどういうことかをできるだけ平易な言葉で説明した上で、駿河湾の海洋構造=水温・塩分・密度の三次元構造が、駿河湾を取り囲む大気、外洋、陸域、海底とどのように関係して決まるのかについて解説する。

(3) 13:00-14:30 —

講義タイトル: 駿河湾の物理海洋学2・・・駿河湾とその周辺海域の流れの物理過程

講師: 高橋 大介(海洋地球科学科・准教授)

講義概要: 駿河湾表層の流れは、海上を吹く風、河川から流入する河川水、そして湾外から流入する外洋水の影響を受けて日々刻々と変化する。本講義では、駿河湾とその周辺海域で行われた海洋・人工衛星観測および数値シミュレーションの結果をもとに、駿河湾表層の流れの構造とその変化について海洋物理学的な視点から解説する。

(4) 14:40-16:10 —

講義タイトル: 駿河湾の生物海洋学2・・・駿河湾のプランクトン、低次生態系

講師: 西川 淳(海洋生物学科・教授)

講義概要: 駿河湾の独自の特徴として(1)海底地形が急峻であり沿岸域から比較的近いところに広がる深海部をもつ、(2)富士川、大井川など複数の大きな河川が流れ込んでいる、(3)沖合を黒潮が流れている、などが挙げられ、それらはプランクトンやマイクロネクトンなど漂流生態系にも影響を与えている。本講義では、同湾における代表的なプランクトン、マイクロネクトンに関する生物・生態学的な知見について、最新の研究データなども踏まえながら紹介する。また、特に人間活動とも密接な関わりを持つサクラエビにも焦点を当て、それらの生態や漁業について概説する。

3. シラバス：

9月15日（水）

(5) 09:30-11:00 —

講義タイトル：駿河湾の生物地球化学・・・駿河湾の物質循環

講師：小松 大祐（海洋地球科学科・准教授）

講義概要：海洋に溶存する栄養塩や気体成分の動態は、生物の活動と密接に関わっている。本講義では海洋における生物地球化学的な物質循環過程について解説する。また駿河湾に見られる淡水供給に伴う栄養塩の輸送についても紹介する。

(6) 11:10-12:40 —

講義タイトル：駿河湾の生物海洋学 1・・・駿河湾の基礎生産

講師：吉川 尚（水産学科・教授）

講義概要：駿河湾沖合域では、植物プランクトンが基礎生産を担っている。駿河湾の基礎生産の特徴やその変動要因（光・栄養塩環境、分類群組成等）について、実際の研究事例に触れながら解説する。

(7) 13:30-15:00 —

講義タイトル：駿河湾の生物学 1・・・駿河湾の魚類

講師：福井 篤（水産学科・教授）

講義概要：駿河湾は富士川や安倍川などの河川水が流入し、海底地形が複雑で湾口部の水深は約2500 m に達する。本講義では、異なる環境に生息する「沿岸性シラス類」と「駿河トラフ底生性魚類」の知見を紹介しながら、彼らの生態を解説する。

(8) 15:10-16:40 —

講義タイトル：駿河湾の生物学 2・・・駿河湾の鯨類

講師：大泉 宏（海洋生物学科・教授）

講義概要：日本近海には30種類以上の鯨類が分布しているが、日本人の一般的感覚では鯨類とは遠く離れたところに存在するなじみの無い生物であろう。しかし、駿河湾には沿岸定着性から外洋回遊性まで幅広い分布特性を持つ様々な鯨類がこれまでに発見されている。本講義では静岡県人にとって身近な海である駿河湾を生息域とする鯨類について概説する。

4. 成績・評価方法について

(a) 課題：各時限の講義ごとの課題を所定の用紙に記入し提出すること

(b) 評価方法：講義ごとの評価をまとめて、総合的に勘案する。

(c) 提出期限：2021年9月28日（火）

(d) 提出場所：所属大学院研究科事務室